

# 聖マリアヘルスケアセンター

St.Mary's Healthcare Center

No. 16-024-2014作成

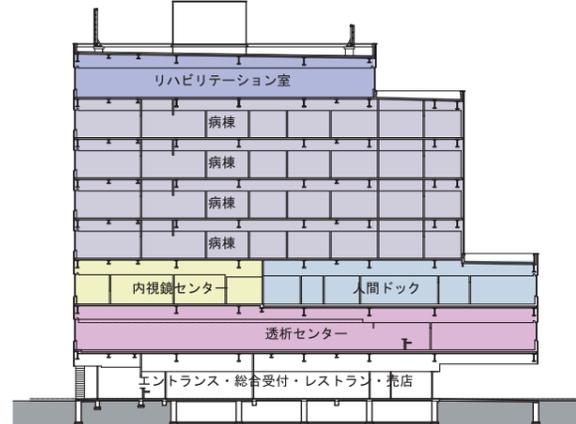
新築  
病院

発注者	社会医療法人雪の聖母会 聖マリア病院	カテゴリー	A. 環境配慮デザイン B. 省エネ・省CO <sub>2</sub> 技術 C. 各種制度活用 D. 評価技術/FB
設計・監理	戸田建設株式会社九州支店一級建築士事務所 TODA CORPORATION	E. リニューアル F. 長寿命化 G. 建物基本性能確保 H. 生産・施工との連携	
施工	戸田建設株式会社九州支店	I. 周辺・地域への配慮 J. 生物多様性 K. その他	

## 地域包括ケアを実践する複合医療施設

地域に育てていただける病院をめざして

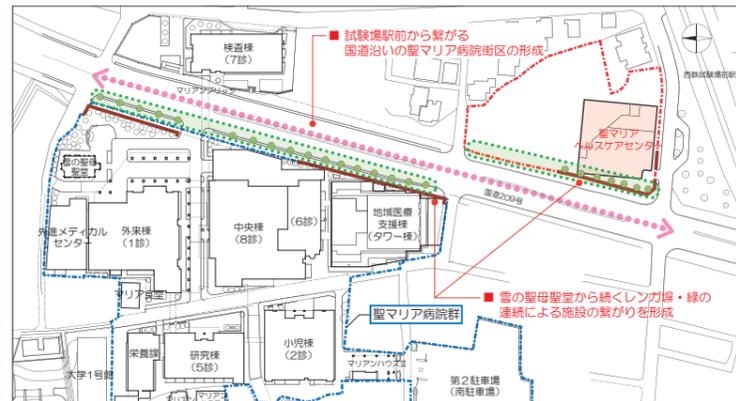
西鉄試験場前駅に隣接したアクセスの良い立地に、入院で機能回復と社会復帰をめざす回復期リハビリテーション病棟・療養病棟、疾病予防と健康増進のための人間ドック・内視鏡センター、通院で維持透析を行う透析センターの3つの部門を構成し、地域包括ケアの実践を設立の目的に掲げた医療施設である。



外観写真（北西）



外観写真（南西）

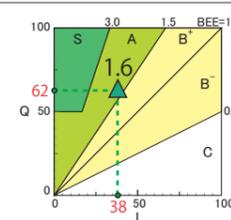


聖マリア施設全体配置図

聖マリア街区を形成するまちなみへの配慮

聖マリアヘルスケアセンターは国道209号を挟んで聖マリア病院群に正対する。本病院は既存病院群との調和を考慮した開口形状とすることで聖マリア街区形成に配慮するだけでなく、西鉄試験場前駅から繋がる国道沿いに並木及び外構レンガ塀を延長する事で聖マリア街区の形成を図り、良好なまちなみづくりを創出している。

建物データ	省エネルギー性能	CASBEE評価
所在地	PAL削減 31 %	Aランク
竣工年	ERR (CASBEE準拠) 32 %	BEE=1.6
敷地面積		2010年度版
延床面積		自己評価
構造		
階数		

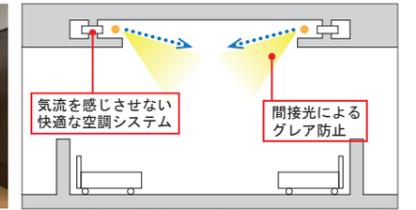


患者が快適に過ごせる空調計画

75床を確保した2階透析センターは患者が快適に過ごせる空間とするためグレア防止に配慮し、間接照明を採用している。また、間接照明の折上天井部に空調吹出しを設け、患者が気流を感じない空間になるように配慮している。



透析センター



間接照明・空調システム模式図

井水利用

本病院は洗面、浴室、便所洗浄水等の給水だけでなく透析治療にも井水を利用している。水道断水時の給水を確保するだけでなく、井水を利用する事でランニングコストを抑える事に貢献している。



病棟階平面図

機能的な平面計画

病棟は南側・西側に病室を配置し、各病室への視線を確保するため病棟廊下の交差部にスタッフステーション、周囲に管理機能をまとめた効率的な平面構成としている。また、北側部分をセットバックした三角形の平面形状は近隣建物への日影影響を最小限に抑える事にも貢献している。

開放的なリハビリスペース

本病院には入院患者が利用するリハビリスペースを1階外部、4階屋上、8階屋上と建物内の各所に設けている。社会復帰を目指す患者が建物内の一部に留まるのではなく建物全体を活用する事で充実したリハビリ訓練を行える計画としている。

設計担当者

統括：矢吹 清一、豊嶋 清貴/建築：荒木 英次、鈴木 雄/構造：海老沢 弘道、名智 竜哉/設備：黒木 富幸、高橋 義行

主要な採用技術 (CASBEE準拠)

- Q2. 2. 耐用性・信頼性 (ゼオライト塗料、井水利用)
- Q3. 2. まちなみ・景観への配慮 (レンガ塀)
- LR1. 1. 建物の熱負荷制御 (複層ガラス)
- LR1. 3. 設備システムの高効率化 (スマートホスピタルライティング、LED照明)
- LR3. 2. 地域環境への配慮 (方位に配慮した平面計画)

臭気対策

病棟サニタリー、内視鏡洗浄室等は消臭機能効果を併せ持つゼオライト塗料 (特殊塗料) を天井仕上げに採用している。ゼオライト塗料は室内の臭気を軽減し作業性の向上に貢献すると共に、室外への臭気漏れを防止し快適な空間を創出する。



スタッフステーション



病棟EVホール



病室 (4床)



4階食堂

患者に優しい照明計画

照明はLED照明の採用だけでなく、4階食堂に人体のリズムとなるサーカディアン・リズムに合わせて照明の色温度が変化するスマートホスピタルライティングシステムを採用し、患者に優しい照明計画としている。



イメージ写真



屋外歩行リハビリスペース



リハビリテーション室